

授業科目名	身体作業療法学演習 Practice of occupational therapy	履修年次 必修：作3年	単位数： 1単位30時間	担当教員名：松尾真輔 (研究室：研究棟) 須藤崇行、保田由美子、熊谷将志 植田修二郎(全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目	コード：ROP301	
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢疾患の問題解決の方法を理解できる。</li> <li>・患者に起こりうる障害から作業療法計画を立案する流れを理解できる。</li> <li>・吸引手技の体験、リスク管理について実技を通して学び、理解できる。</li> <li>・病期別での身体障害における作業療法の実践を経験豊富な作業療法士の講義から理解できる。</li> </ul>				
〔DP〕 ．実践に必要な知識 ．健康づくりの実践、 ．健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の概要〕運動・感覚と知覚の障害に関する作業療法の対象者への治療的内容について、講義で得られた知識を基に評価・治療計画の立案、治療手の実技等を習得する。本科目は、演習形式により、運動・感覚と知覚のうち中枢神経系疾患に起因する障害、変性疾患等に起因する障害、循環器・呼吸器疾患に起因する障害に対する作業療法の実際の作業療法計画の内容を中心として、活動や参加、さまざまな個人因子や環境因子と関連付けながら作業療法で提供しているプログラムの理解を図る。				
キーワード：急性期～回復期の作業療法、中枢神経、作業療法計画、作業療法の実践、吸引の実践				
〔授業計画〕 時間割と時間帯が変更されているので注意のこと				
回数	日付○限	テーマ	内容	担当者
第1回	6/3	オリエンテーション 臨床時の情報収集	他職種での情報の収集の目的を理解する。(GW)	松尾
第2回	6/10	事例に合わせた 評価の選択・実践	事例の特徴を理解し、適切な評価の選定(GW)	〃
第3回	6/10	〃	事例の特徴を理解し、適切な評価の実践(GW)	〃
第4回	6/10	〃	事例の特徴を理解し、適切な評価の実践(GW)	〃
第5回	6/17	事例に合わせた課題と 問題点との抽出	事例より課題を整理し、問題点と利点の抽出(GW)	〃
第6回	6/17	〃	事例より課題を整理し、問題点と利点の抽出(GW)	〃
第7回	6/24	事例に合わせた 作業療法計画	事例より目標設定し、適切なプログラムを考案する(GW)	〃
第8回	6/24	〃	事例より目標設定し、適切なプログラムを考案する(GW)	〃
第9回	7/1	病期別のOT実践	急性期作業療法の実際	保田
第10回	7/1	病期別のOT実践	回復期・維持期作業療法の実際	熊谷
第11回	7/8	事例の治療プログラム を実践	適切なプログラムを実施する(GW)	須藤
第12回	7/8	〃	適切なプログラムを実施する(GW)	〃
第13～ 14回	7/22	呼吸やリスクの管理	模擬人形での吸引手技の体験、リスク管理	植田
第15回	7/29	まとめ	実際の臨床場面に即した対応について	松尾
履修条件	特になし			
予習・復習	講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。			
テキスト	作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 日本OT協会 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	試験(50%)、レポート(40%)、日ごろの学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	精神作業療法評価学 Occupational Therapy For Mental Disorders	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 岡村太郎 [作業療法士] (研究室:仁戸名研究棟8)
		必修:作業2年	1単位 15時間	
			コード ROP205	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 行動や心理的現象を評価し把握する方法について、その理論的背景と実際的な事項を踏まえ、知識と技術を獲得する。				
〔授業の概要〕 精神・心理機能障害の作業療法の評価について、知識と技術を修得する。精神・心理機能障害の作業療法の定義、歴史、作業療法士の役割、及び、精神・心理機能の各障害に適した評価方法・評価項目について知識を身につける。精神作業療法評価学では、精神障害の評価の基礎となる評価方法を学ぶ。 キーワード: 精神, 心理, 評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	評価の概要	評価の特性: 作業療法活動と評価の関係について述べる事ができる なぜ評価するのか? 何を評価するのか? 作業療法は何ができるのか? 評価に時期と適応があるのか? の問いに答えられる チームアプローチの視点から見る作業療法の役割が言える 作業療法における評価の原則が言える	
第2回	4/16	評価のプロセス	評価の収集に必要な項目について言える 評価の順序の決定について言える 収集した情報の整理と要約について述べる事ができる 作業療法士は何ができて、何をしてもいいのか? を考察できる	
第3回	4/23	検査	知能検査、人格検査、認知、行為、構成検査、職業適性検査、身体機能検査の目的と方法の概要について言える	
第4回	4/30	観察	観察の構造、観察の形態、ノンバーバルによる観察、日常生活能力の観察、職業関連能力の観察、社会生活能力の観察	
第5回	5/7	面接	面接の種類と目的の目的と方法の概要について言える 面接の構造の目的と方法の概要について言える 面接の実際の目的と方法の概要について言える	
第6回	5/14	作業面接	作業面接の種類と目的の目的と方法の概要について言える 構成的作業面接の目的と方法の概要について言える 投影的作業面接の目的と方法の概要について言える	
第7回	5/21	評価の実際	各障害の評価の方法目的と方法の概要について言える 各障害の情報収集の目的と方法の概要について言える 評価のまとめと焦点化について概要について言える 各障害治療・援助計画について言える目的と方法の概要について言える 各障害経過・考察について述べる事ができる	
第8回	5/28) - 13:45	まとめ	精神作業療法評価の履修状況のテスト	
履修条件		特になし		
予習・復習		指定された教科書の予習とレポート等による予習・復習を課することがある		
テキスト		精神障害と作業療法【新版】病いを生きる, 病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践: 山根寛, 三輪書店		
参考書・参考資料等		ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改定版 中央法規出版		
学生に対する評価		レポート課題(20%), 学習態度(30%), テスト(50%)により, 総合的に評価する。(配点佐藤20点岡村80点)		

授業科目名	精神作業療法評価学実習 Practice of occupational therapy evaluation in mental health	履修年次： 必修：作2年 通年	単位数： 1単位 45時間	担当教員名： 科目責任者 岡村太郎 [作業療法士] (仁戸名研究棟研究室 8)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 健康づくりの実践 健康づくりの環境の整備・改善 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 行動や心理的現象を評価し把握する方法について、その理論的背景と実際的な事項を踏まえ、技術を獲得する。				
〔授業の概要〕 精神・心理機能障害の評価技術を修得する。疾病性・事例性からの対象者理解、病態像・臨床症状・障害構造からの対象者理解、評価における定量的・定性的アプローチを身につける。それぞれの内容について、演習形式により、学生相互の検討討論、教員または学生による模擬患者などにより対象者とのかわりについて実技の修得を図る。				
キーワード：精神・心理機能障害、作業療法、評価実技				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	(5/28)	検査	使用されるテストバッテリーの実際について言える	
第2回	(6/4)	観察	ノンバーバル、日常生活能力、の観察の実際についてICFから関係が言える	
第3回	(6/11)	観察	職業関連能力、社会生活能力の観察の実際についてICFから言える	
第4回	(6/18)	作業面接	投影的作業面接	
第5回	(6/25)	作業面接	構成的作業面接	
第6回	(7/2)	作業分析による評価	革細工からの作業評価から認知レベルが言える	
第7回	(7/9)	作業分析による評価	革細工からの作業評価からADLやその他の活動状態が言える。	
第8回	(7/16)	検査観察面接とICFとの関係	検査観察面接とからICFとの関係について記述できる	
第9回	(10/1)	環境の評価	集団・プログラムの評価	
第10回	(10/8)	環境の評価	集団・プログラムの評価	
第11回	(10/22)	環境の評価	家族・社会的環境の評価	
第12回	(10/29)	環境の評価	家族・社会的環境の評価	
第13回	(11/5)	疾患別作業療法評価	統合失調症(急性期)	
第14回	(11/12)	疾患別作業療法評価	統合失調症(回復期)	
第15回	(11/19)	疾患別作業療法評価	統合失調症(維持期)	
第16回	(11/26)	疾患別作業療法評価	気分障害(急性期)	
第17回	(12/3)	疾患別作業療法評価	気分障害(回復期)	
第18回	(12/10)	疾患別作業療法評価	神経症	
第19回	(12/17)	疾患別作業療法評価	摂食障害	
第20回	(1/7)	疾患別作業療法評価	パーソナリティ障害	
第21回	(1/14)	疾患別作業療法評価	物質関連障害	
第22回	(1/21)	疾患別作業療法評価	心的外傷・ストレス因関連障害	
第23回	(1/28)	まとめ	精神作業療法評価の履修状況のテスト	
履修条件	特になし			
予習・復習	指定された教科書の予習とレポート等による予習・復習を課することがある			
テキスト	精神障害と作業療法、三輪書店・ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改定版、中央法規出版			
参考書・参考資料等	特にないがこちらで用意するプリントがあるので授業には必ず必携のこと。			
学生に対する評価	レポート課題(20%)、学習態度(30%)、テスト(50%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	精神作業療法学 (Occupational therapy in mental health)	履修年次: 必修:作2年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 岡村 太郎 (研究室 8) 佐藤 大介 [非常勤講師]
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード: ROP207		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、精神障害領域の多職種連携に必要な、代表的疾患に対する作業療法の目標設定とプログラム立案の方法を修得することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 総論、地域生活支援の方向性 ICFに基づく疾患別作業療法支援				
〔授業の概要〕 精神保健福祉における障害の特徴・回復過程に応じた作業療法の目標設定、プログラム立案の方法を身につける。精神障害領域の代表的疾患として、気分障害、統合失調症、不安症群、ストレス関連性障害、精神作用物質使用の精神・行動障害、生理的障害・身体的要因の行動症候群、成人の人格・行動の障害、青年期の行動・情緒障害、器質性精神障害を学ぶ。本授業はオムニバス方式により行い、主に、総論は岡村太郎が、各論は精神障害の作業療法の実務経験に基づき佐藤大介が担当する。 ----- キーワード: 地域精神保健福祉、作業療法、支援方法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	10/4	総論	精神障害領域の作業療法支援	岡村太郎
第2回	10/11	地域生活支援の方向性(歴史、制度、動向)	多職種連携、地域包括ケアシステム	佐藤大介
第3回	10/18	地域生活支援の方向性(理論・実践モデル)	回復過程、リカバリー	佐藤大介
第4回	10/25	疾患別作業療法支援(気分障害)	大うつ病性障害	佐藤大介
第5回	11/1	疾患別作業療法支援(気分障害)	双極性障害	佐藤大介
第6回	11/8	疾患別作業療法支援(統合失調症)	統合失調症(急性期)	佐藤大介
第7回	11/15	疾患別作業療法支援(統合失調症)	統合失調症(回復期・維持期)	佐藤大介
第8回	11/22	疾患別作業療法支援(不安症群)	神経症性障害	佐藤大介
第9回	11/29	疾患別作業療法支援(ストレス関連性障害)	心的外傷、身体表現性障害	佐藤大介
第10回	12/6	疾患別作業療法支援(精神作用物質使用の精神・行動障害)	物質使用障害、アルコール関連精神障害	佐藤大介
第11回	12/13	疾患別作業療法支援(生理的障害・身体的要因の行動症候群)	摂食障害	佐藤大介
第12回	12/20	疾患別作業療法支援(成人の人格・行動の障害)	パーソナリティ障害	佐藤大介
第13回	1/10	疾患別作業療法支援(青年期の行動・情緒障害)	発達神経症	佐藤大介
第14回	1/24	疾患別作業療法支援(器質性精神障害)	認知症	佐藤大介
第15回	1/31	総括	精神障害領域の作業療法の課題、試験	佐藤大介
履修条件	特になし			
予習・復習	予習にテキスト、復習にノートを参照のこと。			
テキスト	国際生活機能分類(ICF) 国際障害分類改定版、中央法規 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学、医学書院			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	試験(60%) 課題(30%) 日ごろの学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業科目名	精神作業療法学演習 (Practice of Occupational Therapy in Mental Health)	履修年次: 必修:作3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 科目責任者 岡村 太郎 (研究室 8) 佐藤 大介 [非常勤講師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕	実践に必要な知識,	倫理観とプロフェッショナリズム,	コミュニケーション能力	
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本科目では、精神障害領域の臨床現場で作業療法の実践に必要な知識、態度・技術を修得することを目標に、以下のテーマで演習を進めていく。 総論 疾患別作業療法の展開 (ICF に基づく事例検討) 地域生活支援 (企画・運営) 臨床技能演習				
〔授業の概要〕 地域精神保健福祉における作業療法として、当事者主体の実践モデル、根拠に基づいた実践モデル、社会資源の活用、精神障害に対する啓発活動に関する作業療法プログラムの実践方法を身につける。精神障害領域の代表的疾患について、ICF に基づく事例検討、プログラムの企画・運営を演習形式で実施し、作業療法の一連の過程を修得する。本演習はオムニバス方式により行い、主に、総論は岡村太郎が、各論には精神障害の作業療法の実務経験に基づき佐藤大介が担当する。 キーワード:地域精神保健福祉、作業療法、事例検討、臨床実践能力				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	総論	精神障害領域の作業療法の展開	岡村太郎
第2回	4/18	疾患別作業療法の展開 (事例検討)	気分障害	佐藤大介
第3回	4/25	疾患別作業療法の展開 (事例検討)	統合失調症	佐藤大介
第4回	5/2	疾患別作業療法の展開 (事例検討)	神経症	佐藤大介
第5回	5/9	疾患別作業療法の展開 (事例検討)	アルコール依存症、薬物依存症	佐藤大介
第6回	5/16	疾患別作業療法の展開 (事例検討)	摂食障害	佐藤大介
第7回	5/23	疾患別作業療法の展開 (事例検討)	パーソナリティ障害	佐藤大介
第8回	5/30	地域生活支援 (プログラムの企画・運営)	デイケア、訪問作業療法	佐藤大介
第9回	6/6	地域生活支援 (プログラムの企画・運営)	生活支援、自助活動、人権擁護	佐藤大介
第10回	6/13	地域生活支援 (プログラムの企画・運営)	自殺対策、ひきこもり、災害支援	佐藤大介
第11回	6/20	地域生活支援 (プログラムの企画・運営)	就労支援、職場のメンタルヘルス	佐藤大介
第12回	6/27	臨床実技演習 1	臨床技能の客観的臨床能力試験	佐藤大介
第13回	7/4	臨床実技演習 2	臨床技能の客観的臨床能力試験	佐藤大介
第14回	7/11	臨床実技演習 3	臨床技能の客観的臨床能力試験	佐藤大介
第15回	7/18	総括	臨床の総合的理解力に関する試験	佐藤大介
履修条件	特になし			
予習・復習	予習にテキスト、復習にノートを参照のこと。			
テキスト	医療福祉総合ガイドブック、医学書院 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学、医学書院			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	試験 (60%)、課題 (30%)、日ごろの学習態度 (10%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	発達期作業療法学 Occupational Therapy for Children	履修年次: 必修：作2年	単位数: 1単位15時間	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室：仁戸名研究棟4)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード：ROP208		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) 発達期における作業療法の役割を説明できる 2) 発達期作業療法でよく用いられる評価の目的や種類、方法等について説明ができる 3) 発達障害の特徴、評価方法について説明できる 4) 感覚統合機能の評価と治療について説明できる				
〔授業の概要〕				
発達期作業療法の対象疾患・障害や作業療法を提供する治療・援助の場は多様である。状況により、臨床的行動観察により評価することもあれば、標準化された検査を用いることもある。本科目では、子どもの定型発達の諸側面の観察評価を修得する。発達期作業療法でよく用いられる評価の目的や種類、方法等について説明ができるようになることを目的とする。さらに発達障害の病態や評価と治療と感覚統合評価と感覚統合療法について学修する。本科目は作業療法士の実務経験に基づき行われる。				
キーワード：発達検査、発達障害、感覚統合				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	11/26(11:30 ~12:15)	発達期作業療法総論	発達期作業療法の概要とその役割、面接・観察・評価の進め方	
第2回	12/3	発達検査	発達検査(デンバー、遠城寺、K式、KIDS、DTVP、田中ビネー、JMAP等)演習	
第3回	12/10	発達検査		
第4回	1/7 限	発達検査		
第5回	1/7 限	発達検査		
第6回	1/14	発達障害	発達障害の病態	
第7回	1/21	発達障害	発達障害の評価と治療	
第8回	1/28 限	感覚統合	感覚統合理論の評価と治療	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。		
テキスト		イラストで分かる発達障害の作業療法(医歯薬出版)		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		筆記試験(70%)、課題(20%)、学習態度(10%)により総合的に評価する		

授業 科目名	発達期作業療法学演習 Practice of Occupational Therapy for Children	履修年次: 必修:作3年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室:仁戸名研究棟4)、 米持 喬 (非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) 発達期における作業療法の対象疾患の特徴, 評価方法について説明できる				
2) 定型発達児の集団生活場面での行動観察から発達段階を評価できる				
3) 発達障害児の作業活動場面から発達特性を評価できる				
4) 発達期作業療法における支援目標と支援計画を立てることができる				
〔授業の概要〕				
本科目では、発達期作業療法の基本的な考え方を理解するとともに、対象疾患・障害の基本的知識を学修する。主な対象疾患である自閉スペクトラム症や脳性麻痺等の作業療法支援について、演習を通して学修する。支援の場の違いによる発達期の作業療法士の役割や機能の違いを理解する。				
キーワード: 脳性麻痺、重症心身障害、事例検討				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回		オリエンテーション	オリエンテーション	有川真弓
第2回	4/12	知的障害等の作業療法	知的障害, 染色体異常等の評価と支援	有川真弓
第3回		知的障害等の作業療法		有川真弓
第4回	4/23 (火) 1-3限	脳性麻痺の作業療法 (ジャージなどの服装)	脳性麻痺の病態	米持 喬
第5回			脳性麻痺の評価	米持 喬
第6回			脳性麻痺の支援	米持 喬
第7回				
第8回	4/26	事例検討	具体事例の行動分析	有川真弓
第9回				
第10回	5/10	事例検討・遊具体験 (ジャージなどの服装)	具体事例の行動分析	有川真弓
第11回			具体事例の治療計画立案	有川真弓
第12回			遊具体験・治療計画発表	有川真弓
第13回	5/17	重症心身障害の作業療法	重症心身障害の病態・評価・治療	米持 喬
第14回		脳性麻痺の作業療法	脳性麻痺の作業療法の実際	米持 喬
第15回		脳性麻痺の作業療法	脳性麻痺の作業療法の実際	米持 喬
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。		
テキスト		イラストで分かる発達障害の作業療法 (医歯薬出版)		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		課題 (90%) 学習態度 (10%) により総合的に評価する		

授業 科目名	老年期作業療法学 Occupational Therapy for Senile Disorders	履修年次： 必修：作2年	単位数： 1単位 15時間	担当教員名： 松尾真輔 [作業療法士] (仁戸名研究室6)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 . 実践に必要な知識 健康づくりの実践 . 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 高齢者および高齢者と生活を共にする家族の生活を理解し、高齢者の老化に伴う変化・特徴や生活背景などを踏まえたうえで、関わる際の留意点を理解する。また高齢者に関わる作業療法士の役割を理解し、個々の高齢者を包括的に捉え、ニュースや新聞で取り上げられる日々の情報の中から、高齢者や高齢者を取り巻く環境に関わる情報に関心を持つことができりように心がける。今後、高齢期作業療法を学ぶ上での基礎となる科目となるため、講義内容ごとの復習が重要となる。				
〔授業の概要〕 老化にともなう身体的・心理的变化など高齢者の特徴や対象者として関わる際の留意点を学ぶ。また、高齢者のライフサイクルを含めた人生における背景を知り、高齢者にとって意義ある作業とは何かを探究する視点を学ぶ。				
キーワード：高齢化、高齢者の特徴と課題、高齢期の作業療法、				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/1	授業ガイダンスと導入	「高齢者の定義」について考える。	
第2回	10/8	高齢者の育ってきた時代背景	予習：高齢社会、老化、加齢に関するニュースなど情報を集め、時代背景を知るに必要な本や新聞などの資料を持参すること。	
第3回	10/22	高齢者の特徴と課題	高齢者に起こり易い疾患や合併症についての基礎的知識を学ぶ。	
第4回	10/29	高齢者の生活と制度	高齢者に関する制度や社会資源を学ぶ。	
第5回	11/5	高齢期の作業療法	高齢者に対する作業療法の役割や機能、目的を知る。	
第6回	11/12	認知症の作業療法	認知症に対する作業療法の役割や機能、目的を知る。	
第7回	11/19	MTDLP 概論	生活行為向上マネジメントを理解する。	
第8回	11/26	まとめ	講義の総括（重要事項の整理）	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習はテキスト、配布資料を熟読し、復習は配布資料と記載ノートの見直しを推奨する。		
テキスト		標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版（医学書院）		
参考書・参考資料等		ベッドサイドの高齢者の診かた 第1版 授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験(50%)、課題・発表(30%)、日ごろの学習態度(20%)により、総合的に評価する。		

授業 科目名	老年期作業療法学演習 Practice of Occupational Therapy for Senile Disorders	履修年次： 必修：作3年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 科目責任者 松尾真輔 (仁戸名研究室6) 須藤崇行 [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 健康づくりの実践 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法士として老年期プログラムにおける分野ごとの提供・相談・調整をするために必要な知識と技能を修得する。高齢者に関わる作業療法士の様々な場面での役割を理解し、個々の高齢者を包括的に捉え、高齢者を取り巻く状況に対応できるようになる。 1. 対象者や家族を調整し問題を解決する方法を、疾患や環境に応じて説明することができる。 2. 老年期作業療法プログラムを立案することができる。				
〔授業の概要〕 高齢者特有の疾患や臨床現場で対象者と関わる際の留意点を学ぶ。高齢者にとって意義ある作業プログラムとは何かを探究する視点を学ぶ。				
キーワード：高齢者の疾患と課題、老年期の作業療法、包括的視点				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	5/24	老健施設での作業療法	介護を必要とする高齢者の自立支援の在り方	須藤
第2回	5/24	老健施設での作業療法	老健でのリハビリテーション	〃
第3回	5/24	老健施設での作業療法	老健での作業療法の役割について	〃
第4回	5/31	中高年者の就労支援	中高年者の就労支援についての実態	特別講師
第5回	5/31	中高年者の就労支援	中高年者の就労支援についての在り方	〃
第6回	5/31	MTDLP の実際	MTDLP シートの活用方法について	松尾
第7回	6/7	MTDLP の実際	実際の事例を通じて MTDLP の各シートを使用する	〃
第8回	6/7	MTDLP の実際	実際の事例を通じて MTDLP の各シートを使用する	〃
第9回	6/7	MTDLP の実際	実際の事例を通じて MTDLP の各シートを使用する	〃
第10回	6/14	訪問リハの作業療法	訪問時の作業療法士の役割	特別講師
第11回	6/14	訪問リハの作業療法	訪問時の作業療法の実際	〃
第12回	6/14	訪問リハの作業療法	訪問時の作業療法の実際	〃
第13回	6/21	認知症に対する作業療法	認知症の病態のおさらい	特別講師
第14回	6/21	認知症に対する作業療法	認知症の人の生活について事例を通して学ぶ	〃
第15回	6/21	認知症に対する作業療法	評価から治療までの一連の流れについて	〃
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読、復習として配付資料の見直し			
テキスト	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版(医学書院)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	試験(40%)、学習態度(30%)、講義内課題(30%)により、総合的に評価する			

授業 科目名	高次神経機能作業療法学 (Occupational Therapy of Higher Brain Function)	履修年次: 必修:作業年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 藤田佳男 [作業療法士] (仁戸名研究室5)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード: ROP210		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 高次神経機能とその障害の原因、障害像や症状、治療、訓練について講義により理解する。 高次神経機能を評価する方法について、デモや実技を見て理解する。				
〔授業の概要〕 脳血管障害や脳外傷などによる高次神経機能障害(高次脳機能障害)について、基礎的な知識を修得する。高次神経機能(感情、注意、記憶、認知、行為、コミュニケーション、遂行機能、前頭葉機能等)についてそれぞれ障害部位、障害像、具体的な症状などを講義により系統的に修得する。その評価方法および対応や治療・訓練について、主にグループ学習と発表により学修する。病院で勤務経験がある作業療法士の実務経験に基づき実施する。				
キーワード: 高次脳機能、神経心理学、評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1,2回	11/21	オリエンテーション 総論	オリエンテーション 高次脳機能の概要	
第3,4回	11/28	知能 注意と意識	知能とその評価,治療,訓練 注意機能の障害像と評価,治療,訓練	□
第5,6回	12/5	記憶 失語,失行,失認	記憶機能の障害像と評価,治療,訓練 失語,失行,失認の障害像と評価,治療,訓練	□
第7,8回	12/12	視覚認知 遂行機能,失読,失書	視覚認知機能の障害像と評価,治療,訓練 遂行機能の障害像と評価,治療,訓練	□
第9,10回	12/19	情動,意欲(社会的行動) 地域生活	情動,意欲(社会的行動)の障害像と評価,治療,訓練 地域で生活するために,損傷部位別の特徴	□
第11,12回	1/9	グループ発表	グループ発表1	□
第13,14回	1/16	グループ発表	グループ発表2	
第15回	1/23	まとめ		
	1/30	予備日		
	2/6	予備日		
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。			
テキスト	武田克彦ら編、「高次脳機能障害のリハビリテーション Ver.3 医歯薬出版」			
参考書・参考資料等	石合純夫,高次脳機能障害学 第三版 医歯薬出版			
学生に対する評価	定期試験(30%),課題(30%)授業態度(小テスト等含む:40%)で総合的に評価する。			

30分以上の遅刻は欠席として扱う。  
□は小テスト予定日である

授業科目名	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	履修年次: 必修: 作2年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸名研究室5)
		コード: ROP211		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活活動の概要, 指導, 訓練方法について理解する。</li> <li>・日常生活活動を評価する方法について理解する</li> </ul>				
〔授業の概要〕起居、移乗、移動などの基本動作から食事、排泄、更衣、整容、入浴、コミュニケーションなどの基本的ADLの概要、評価(FIM、BIなど)および家事、交通機関の利用などの手段的日常生活活動について、その指導、訓練方法を系統的に講義にて修得する。病院で勤務経験がある作業療法士の実務経験に基づき実施する。				
キーワード: 日常生活活動、セルフケア、手段的日常生活活動				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1,2回	12/6	総論 基本動作	日常生活活動とは? ICF および生活との関連 起居・床上・移乗動作	
第3,4回	12/13	基本的日常生活動作 基本的日常生活動作	更衣、整容、排泄(トイレ動作) 食事と嚥下の機能、入浴、家事動作	
第5,6回	12/20	評価 評価	さまざまな評価と特徴, Barthel Index, FIM (Functional Independence Measure)	
第7,8回	1/10	手段的日常生活動作 まとめ	手段的日常生活活動の種類と評価・指導 全体のまとめ	
	1/24	予備日		
	1/31	予備日		
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。			
テキスト	濱口 豊太編, 標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学第2版 医学書院 千野直一ら, 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM (基礎編) 金原出版			
参考書・参考資料等	生田宗博編「I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店 鎌倉矩子ら, ADL とその周辺 第二版 評価と指導の実際 医学書院			
学生に対する評価	定期試験(30%), 課題(30%) 小テスト(30%), 授業態度(10%)で総合的に評価する。			

30分以上の遅刻は欠席として扱う。  
状況により時間割以外の日時で実施する可能性があるため注意すること

授業 科目名	日常生活活動学演習 (Practices of skills of Activities of Daily Living)	履修年次: 必修:作3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸名研究室5) 有川真弓 佐藤大介(非常勤講師) 坂田祥子(非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本科目は「日常生活活動学」の知識を基にして、以下のことを目標として学習する。 1. 各障害・時期などに応じた対象者の日常生活活動(ADL)の特徴を理解し、説明することができる。 2. 各障害・時期などに応じたADLの支援方法を理解する。 3. 対象者のADLに対する評価から支援までの一連の流れを学び、支援方法を実施することができる				
〔授業の概要〕「日常生活活動学」の講義を基盤として、基本動作と日常生活活動に関する作業療法について、支援計画の立案および指導方法、実技等を習得する。また、基本動作と日常生活活動に対する作業療法について、臨床実習を想定し学生相互の討論および実技実習等で理解と経験の習得を図る。病院勤務の経験がある教員の実務経験により実施する。				
キーワード: 疾患別ADL、作業療法支援、計画立案と実施				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1-3回	4/11 1-3限	基本動作の援助,指導法	ADLの基本となる起居,立ち上がり, 移乗動作の支援 トイレ動作の支援	藤田佳男
第4-6回	4/18 1-3限	ADL援助,指導法	入浴動作等の支援, 更衣動作、歩行の支援	藤田佳男
第7,8回	4/25 1,2限	脳血管障害者のADL	脳血管障害者への作業療法支援	坂田祥子(非常勤講師)
第9,10回	5/9 2,3限	発達障害関連のADL	小児発達領域の作業療法支援	有川真弓
第11,12回	5/16 2,3限	精神障害関連のADL	精神障害の作業療法支援	佐藤大介(非常勤講師)
第13,14回	5/23 2,3限	脊髄損傷者のADL	脊髄損傷者への作業療法支援	對間泰雄(特別講義講師)
第15回	5/30 2,3限	まとめ	発表と全体のまとめ	藤田佳男
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。			
テキスト	日常生活活動学で指定したもの			
参考書・参考資料等	日常生活活動学で指定したものその他、授業で適宜紹介する			
学生に対する評価	レポート・発表・実技(70%) 学習態度(30%)により、総合的に評価する			

30分以上の遅刻は欠席として扱う。

授業の実施時限や詳しい実施内容については開始日に配布する資料を確認すること

科目責任者が担当する授業は実技を含むため実習衣やジャージなど動きやすい服装で参加すること

授業 科目名	義肢装具学 (Practice for Assistances of Activities of Daily Living)	履修年次： 必修：作3年	単位数： 2単位30時間	担当教員名： 科目責任者 松尾真輔 吉野智佳子 (仁戸名研究棟6)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード：ROP212		
〔DP〕 ．実践に必要な知識 健康づくりの実践 ．健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1．義肢（義手・義足）四肢体幹の運動機能障害等に用いられる装具について理解する 2．主に上肢装具での実際の製作を通して、適合判定（チェックアウト）の方法を知る。 3．主に義手での実際の製作を通して、適合判定（チェックアウト）の方法を知る。				
〔授業の概要〕				
本科目では、四肢の欠損に用いられる義肢（義手・義足）四肢体幹の運動機能障害等に用いられる装具について理解を深め、定義、種類、名称などについて学修する。また、対象者を評価し、アプローチするための基礎的な知識と技術を習得するために、実際の製作を通して、義肢装具の適合判定の方法、アプローチ方法などについて学修する。				
キーワード：事例検討、採型、スプリント製作、適合判定				
〔授業計画〕				
回数	日付 ○限	テ - マ	内 容	担 当 者
第1回	4/8	オリエンテーション 装具 義肢装具室	装具総論 装具の適用と製作のポイント	吉野智佳子
第2回	4/15	装具 義肢装具室	上肢装具、下肢装具、体幹装具 スプリント製作	吉野智佳子、 松尾真輔
第3回	4/22	装具 義肢装具室	スプリント製作	吉野智佳子、 松尾真輔
第4回	5/13	装具、義肢 義肢装具室	スプリント製作 切断と義肢 義手・義足の 適用と製作のポイント	吉野智佳子、 松尾真輔
第5回	5/20	義肢 義肢装具室	前腕能動仮義手作成	吉野智佳子
第6回	5/27	義肢 義肢装具室	前腕能動仮義手作成	吉野智佳子
第7回	6/3	義肢 義肢装具室	適合判定・模擬使用体験	吉野智佳子
履修条件	特にない			
予習・復習	講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。			
テキスト	清水順市 他 編集：リハビリテーション義肢装具学、メジカルビュー社			
参考書・参考資料等	・作業療法学全書「改定第3版第9巻 義肢装具学」 ・沢村誠志 監修：義肢学 第3版、医歯薬出版社 ・加倉井周一 監修：装具学 第4版、医歯薬出版社			
学生に対する評価	定期試験40%、課題・製作60%、学習態度+			

授業 科目名	福祉機器論 (Assistive Technology and Technical Aids)	履修年次: 必修: 作3年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 藤田佳男 [作業療法士] (仁戸名研究室5)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード: ROP213		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本科目では、作業療法士の専門性のひとつである福祉機器の選定と適合についての知識・技術を習得する。履修後に以下のことができることを目標とする。 1. 基本動作、ADL および IADL に関連する福祉機器の機能や適応を理解し、説明することができる。 2. さまざまな障害やその程度に応じて適切な福祉機器や対処方法を選定することができる。 3. 福祉機器（住宅改修等を含む）を用いた環境調整方法を理解し、説明することができる。				
〔授業の概要〕 福祉機器および住環境の整備について、さまざまな活動別に選定および適合方法について学習する。出来る限り実際の用具に触れて操作方法や指導方法を習得する。必要に応じてグループワークや発表なども行う。福祉用具展示場に勤務経験がある教員の実務経験により実施する				
キーワード: 福祉用具、テクニカルエイド、アシスティブテクノロジー				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1-3回	11/19 3-5限	総論,基本動作,食事,排泄	総論,食事動作,排泄動作の福祉用具 起居、床上動作、移乗動作の福祉用具	
第4-6回	11/26 3-5限	整容,更衣,入浴 IADL	整容動作、更衣動作、入浴動作、IADL に関する福祉用具	
第7-9回	12/3 3-5限	移動,PC,ECS,認知機能, コミュニケーション	移動と外出支援用具、PC 関連、環境制御装置など重度障害者のための福祉用具	
第10-12回	12/10 3-5限	住環境,自動車 課題製作	家事動作の福祉用具、住環境整備、自動車 製作実習	
第13-15回	1/7 3-5限	授業内試験 課題製作	授業内試験 製作実習	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト		山中武彦編,作業療法学ゴールドマスターテキスト 福祉用具学(改訂第2版) メジカルビュー		
参考書・参考資料等		授業で適宜紹介する指示する		
学生に対する評価		レポート・発表・実技(70%) 学習態度(30%)により、総合的に評価する		

30分以上の遅刻は欠席として扱う。

授業の実施時限や詳しい実施内容については開始日に配布する資料を確認すること

科目責任者が担当する授業は実技を含むため実習衣やジャージなど動きやすい服装で参加すること

授業科目名	地域社会参加支援学 Community participation based Occupational Therapy	履修年次: 必修：作3年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 科目責任者 岡村太郎
		実務経験のある教員による授業科目	コード: ROP214	(仁戸名研究棟8)成田悠哉 酒井ひとみ, 関美行, 松本直之 [作業療法士](非常勤講師室)
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, 健康づくりの環境の整備・改善, 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本講義では、地域への社会参加・就労支援のリハビリテーション固有の視点を踏まえながら、基礎理論や活用できる制度、就労支援・地域社会参加への手法と実施を学ぶことを通して、社会参加・就労支援における OT の役割を明確化し、実践のための基礎的知識の習得を目指す。				
〔授業の概要〕 作業療法士の視点を重視して、ICF による「参加」・「環境・個人因子」に含まれる要素のうち、地域社会参加・職業関連等に関する作業療法の対象者への治療的内容について、知識と技術を習得する。本科目は、オムニバス方式による講義を中心に、地域社会参加支援の基礎概念と実践は酒井先生、就労支援は関先生、国内外の実践を松本先生が担当する。 キーワード: 活動・参加, 環境因子, 職業リハビリテーション, 就労支援, 障がい者				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	担当
第1回	6/28	1. ガイダンス・地域社会参加と就労	地域社会参加と就労の概念と変遷 エビデンスに基づいた理論紹介(オープンダイアログ・未来語りのダイアログ)	酒井 岡村
第2回	6/28	2. 地域社会参加支援と作業療法士の役割	多領域の地域社会参加支援の基礎概念と知識	酒井(岡村)
第3回	6/28	3. 地域社会参加支援と作業療法士の役割	国内の実践 1. 地域社会参加(貧困)	酒井(岡村)
第4回	7/5	4. 職業リハビリテーションの実際 1	国内の実践 2. 就労支援・職業リハビリテーション	関(成田)
第5回	7/5	5. 職業リハビリテーションの実際 2	国内の実践 2. 就労支援・職業リハビリテーション	関(成田)
第6回	7/12	6. 地域社会参加の実際 1	国内の実践 3. 地域社会参加(高齢者)	松本(成田)
第7回	7/12	7. 地域社会参加の実際 2. 試験案内	諸外国の実践 1. イタリア	松本(成田)
第8回	7/26	8. 地域社会参加・職リハの歴史と理論.	諸外国の実践 2. カナダ・フィンランド	酒井(関・松本・ 岡村・成田)
履修条件		特になし		
予習・復習		上段テーマ毎に、地域社会参加支援の基礎となる概念と知識について指定テキストを通読し、自宅学習課題に取り組む。授業ごとに、課題を設定する。		
テキスト		「オープンダイアログ」ヤコ・セイラック/トム・エーリック(著),高木俊介/岡田愛(訳),日本評論社,2016.		
参考書・参考資料等		「標準作業療法学 ADL・社会生活行為学」濱口豊太(編集),医学書院,2014. 「トリエステ精神保健サービスガイド 精神病院のない社会へ向かって」トリエステ精神保健局(編集)2004,小山昭夫(翻訳),現代企画室,2006. 「精神病院はいらない!!: イタリア・バザーリア改革を達成させた愛弟子 3 人の証言」現代書館,2016.「人生、ここにあり!」ジュリオ・マンフレドニア(監督)DVD 「オープンダイアログとはなにか」斎藤環(訳+著)医学書院,2015. 「あなたの心配ごとを話しましょう」トム・エーリック他著,高橋睦子訳,日本評論社,2018. 「開かれた対話と未来 今この瞬間に他者を思いやる」ヤコ・セイクラ /トム・アーンキル(著),医学書院,2019.		
学生に対する評価		レポート課題(30%),実技試験(70%)により、総合的に評価する。実技試験は7/26の授業後に実施する。		

授業 科目名	地域社会参加支援学演習 A seminar of rehabilitation in the community	履修年次： 必修：作3年	単位数： 1単位30時間 コード：ROP306	担当教員名： 科目責任者 須藤崇行 (研究室：東校舎棟2) 有川真弓、 斎藤梨菜、佐藤大介 [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .実践に必要な知識 .健康づくりの実践 .健康づくりの環境の整備・改善 .多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 少子・高齢・多死社会を迎えた日本では、地域社会における在宅医療・ケアを拡大させなければならない。作業療法士が生活期にある障害者に対し、ICFでいう参加に介入することは、障害者の在宅生活の行動範囲の拡大や家族役割を持つことに繋がる。本科目では、この観点から障害者に対する社会的適応支援をテーマに演習形式で講義を進める。				
〔授業の概要〕 講義や様々な障害にかかわる作業療法士の事例を通した演習形式により、ICFによる「参加」、及びそれを支える「環境・個人因子」に介入する作業療法士の役割や課題について理解する。 (本授業はオムニバス方式により行い、施設から在宅への流れについては須藤崇行が、訪問リハビリにおける作業療法士の活動については斎藤梨菜が、精神障害者に対する社会的適応支援については佐藤大介が、作業療法士による就学前、及び学校生活における社会的適応支援については有川真弓・酒井康年が担当する。) キーワード：社会的適応、在宅生活、訪問リハビリ、就学、就労				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/14	精神障害者への社会的適応支援	事例：精神障害者に対する社会的適応支援	佐藤大介
第2回	11/21	精神障害者への社会的適応支援	事例：精神障害者に対する社会的適応支援	佐藤大介
第3回	11/28	訪問リハビリにおける作業療法士の活動	事例：訪問リハビリにおける作業療法の実際	斎藤梨菜
第4回	12/5	訪問リハビリにおける作業療法士の活動	事例：訪問リハビリにおける作業療法の実際	斎藤梨菜
第5回	12/12	作業療法士による就学前、及び学校生活における社会的適応支援	事例：学校生活における支援 (特別講義)	酒井康年
第6回	12/19	作業療法士による就学前、及び学校生活における社会的適応支援	事例：就学前における支援	有川真弓
第7回	1/9	施設から在宅への移行支援	事例：老健からの移行支援	須藤崇行
第8回	1/16	施設から在宅への移行支援	事例：老健からの移行支援	須藤崇行
履修条件	特になし。			
予習・復習	4パートで構成されているので、各々の講義について内容をよく再確認して復習する。			
テキスト	各講師より各々提示する。			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題発表(50%)、課題(30%)、日常の学習態度(20%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	地域作業療法学 (Community-based Occupational Therapy)	履修年次: 必修:作3年	単位数: 2単位30時間	担当教員名: 科目責任者 藤田佳男 (仁戸名研究室5) 松尾真輔、 大熊明(非常勤講師) [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科 目	コード:ROP215	
〔DP〕 健康づくりの実践 多職種との協働 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、作業療法士に必要な地域リハビリテーションの概念と枠組みを理解し、その枠組みにおける作業療法の位置づけを理解する。その上で、地域で作業療法を実践していくための知識と方法について学び得ることを目標とする。				
〔授業の概要〕 本科目は講義および演習形式により、社会保障制度の枠組みを理解し、医療保険、介護保険関連だけではなく地域生活で幅広く作業療法がかかわる領域とその実践について理解をする。また、治療・訓練という視点だけではなく、地域において作業療法が対象とする「健康の維持」「健康の増進」についても理解を深める。担当教員の福祉センターでの実務経験により実施する。				
キーワード: 社会保障、地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1,2回	4/17 3,4限	概論,地域作業療法	地域リハビリテーションの概略を理解する	藤田佳男
第3,4回	4/24 3,4限	社会資源,制度	地域生活に必要な社会資源や制度を理解する	藤田佳男
第5,6回	5/1 3,4限	実践過程	生活行為向上マネジメントを理解する	松尾真輔
第7,8回	5/8 3,4限	実践過程	身体分野および訪問の地域作業療法を学ぶ	藤田佳男
第9,10回	5/15 3,4限	実践課程	地域包括ケアシステムを理解する	(特別講義講師/露崎雄太)
第11,12回	5/22 3,4限	実践課程	地域ケア会議での連携を理解する	(特別講義講師/今野和成)
第13,14回	5/29 3,4限	実践課程	災害時の地域作業療法	(特別講義講師/今野和成)
第15回	6/12 3,4限	実践過程,まとめ	地域づくりと作業療法	(非常勤講師/大熊明)
予備日	6/19,6/26,			
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。			
テキスト	標準作業療法学「地域作業療法学 改訂第3版」大熊明 編、医学書院			
参考書・参考資料等	適宜授業時間内に紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 60% 学習態度(課題提出含む) 40% 総合的に評価する			

30分以上の遅刻は欠席として扱う。

日程の変更や、実施方法の変更があり得るため、予備日に授業を行うことがある。

授業科目名	作業療法総合演習 Intergrated Seminar of Occupational Therapy	履修年次 選択：作4年 通年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 科目責任者 岡村太郎 (仁戸名研究室8) 藤田佳男、 有川真弓、松尾真輔、須藤崇行、 成田悠哉 [作業療法士]	
		実務経験のある教員による授業科目			コード：ROP401
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム、 実践に必要な知識 健康づくりの実践、VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽					
授業の到達目標及びテーマ) 作業療法士として必要な専門的知識・臨床技能が習得できているか確認し、振り返りを行う。 1. 作業療法における基本的な専門知識や臨床技能が備わっている 2. 自身の課題を明確にし、解決するために適切な対応をとることができる。 3. 作業療法士国家試験受験に対応できる知識・技術・情意が備わっていること					
〔授業の概要〕 作業療法の高度化するニーズに対応するため、自らの興味関心や課題に基づき主たるテーマを立て、テーマに則した専門的な知識や技術を修得する。グループ演習形式によりそれぞれのテーマを深く具体的に学修した後、作業療法士の国家試験レベルの総合的学力評価と作業療法学専攻のコンピテンシー等をもとにフィードバックを行い、問題を解決する方法を身ける。					
キーワード：総合演習、専門的知識・臨床技能、問題解決能力					
〔授業計画〕7月から2月初旬まで実施。外部模試・模試火曜3限目 7/9.16.23.30.8/6(任意参加 8/20.27.9/3.10.17.24.)10/1.8.15.22.29.11/5.12.19.26.12/3.10.17.24. 1/7.14. 実施予定					
回数	日付	テーマ	内容	担当	
第1回	4/2	オリエンテーション	演習の進め方、注意事項に関する説明	4年担任須藤(岡村)	
第2回	7/8~8/8	総合実習中 グループ演習 学習計画と実施	学習態度・成績を反映し、必要に応じて学習グループと担当教員を担任が案作成し、専攻会議の議を経決定する。各グループの学習計画のチェックは、主担当教員が計画・実施・チェック・実行を促し、学生が決定する。 ・各テーマに関するグループ学習 ・適宜主担当教員のフィードバックを受け、問題解決に取り組む ・外部・内部模試による知識の確認 学生はグループ演習を実質30時間確保すること。 各グループより、グループ担当学生を選出し、担任まで報告すること。	全教員	
第3回~第5回	8/8~9/27 10/3~11/1	グループ演習 筆記試験		全教員	
第6回~第7回	11/5~11/29	グループ演習 筆記試験		全教員	
第8回~第9回	12/2~12/24	グループ演習 筆記試験		全教員	
第10回~第12回	1/4~1/31	グループ演習 筆記試験		全教員	
第13回~第15回	2/3~2/7	グループ演習 筆記試験		全教員	
履修条件		1.2年の必修科目履修済みのこと			
予習・復習		これまでの講義・演習資料、QB参考書を用いて、計画的に学習すること。			
テキスト		ポケットマスターPT/OT 国家試験必修ポイント 基礎医学. ポケットマスター PT/OT 国試 必修ポイント 臨床医学			
参考書・参考資料等		クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題			
学生に対する評価		毎回(週1)過去問の内部模試・外部模試の筆記試験の実施(90%)、グループ活動による学習態度(10%)により、総合的に評価する。12月末時点の成績を総合評価として評価とする。			

授業 科目名	作業療法学特論 A Specialized research in occupational therapy, A	履修年次： 選択:作4年	単位数： 1単位 15時間	担当教員名： 岡村 太郎 (研究室：仁戸名研究棟8) [作業療法士]	
		実務経験のある教員による授業科目			コード:ROP307
		【DP】 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
【授業の到達目標及びテーマ】					
(1) 卒業論文のテーマを選択提出準備できる (2) 卒業論文の倫理審査提出の準備ができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てる準備ができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順において作成準備ができる (5) 卒業研究の発表(プレゼンテーション)の準備ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出の準備ができる					
【授業の概要】					
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。卒業研究テーマの補完するテーマあるいは興味関心がある分野・テーマの内容を選択して、卒論担当教員とは別に取り組むことができる。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。					
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ					
【授業計画】					
回数	日付	テーマ	内容	担当	
第1回	4/2	オリエンテーション	特論の進め方、注意事項に関する説明	岡村	
		総合実習中			
第2回	7/8～ 8/8	テーマ：「作業療法に関する研究デザインと実験・調査実施方法、統計方法について」 内容：			
第3回～ 第6回	8/8～ 9/27	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む 1) 学生は、研究テーマを述べるができる。 2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。			
第7回 第9回	11/5～ 11/29	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等(臨床実習期間を除く)の講義を受ける事とする。学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保される事とする。)			
第10回～ 第12回	12/2～ 12/24	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。 1) 学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べるができる。 2) 学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べるができる。 3) 学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べるができる。			
第13回～ 第15回	1/4～ 1/31	4) 学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べるができる。 5) 学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。 6) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べるができる。			
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。				
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。				
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。				
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。				
学生に対する評価	レポート課題(50%)、学習態度(30%)、テスト(20%)により、総合的に評価する。(学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。)				

授業 科目名	作業療法学特論 B Specialized research in occupational therapy, B	履修年次: 選択：作業 4 年	単位数: 1 単位 15 時間	担当教員名: 藤田佳男 [作業療法士] (仁戸名研究室 5)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード: ROP308
		〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
(1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順にいて作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる					
〔授業の概要〕					
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「 <u>高齢者・障害者の自動車運転や地域移動支援について・福祉用具や IT 支援について</u> 」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。					
キーワード： プロトコル作成，研究計画，研究テーマ					
〔授業計画〕					
回数	テーマと内容				
第 1 回	テーマ：「高齢者・障害者の自動車運転や地域移動支援について・福祉用具や IT 支援について」 内容：				
第 2 回	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む				
第 3 回	1) 学生は、研究テーマを述べることができる。				
第 4 回	2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。				
第 5 回	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を受ける事とする。学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保される事とする。）				
第 6 回	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。				
第 7 回	1) 学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べるすることができる。				
第 8 回	2) 学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べることができる。				
	3) 学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べるすることができる。				
	4) 学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べるすることができる。				
	5) 学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。				
	6) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べるができる。				
履修条件	特になし				
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。				
テキスト	担当教員が適宜指示する				
参考書・参考資料等	担当教員が適宜紹介する。				
学生に対する評価	課題（60%）、学習態度（40%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること）				

授業 科目名	作業療法学特論 C Specialized research in occupational therapy, C	履修年次: 選択：作 4 年	単位数: 1 単位 15 時間	担当教員名: 有川 真弓 [ 作業療法士 ] ( 研究室：仁戸名研究棟 4 )
		実務経験のある教員による授業科目	コード：ROP309	
〔 DP 〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔 授業の到達目標及びテーマ 〕				
(1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順について作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる				
〔 授業の概要 〕				
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「感覚統合療法の効果について」、「特別支援教育における作業療法」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。本科目は作業療法士の実務経験に基づいた講義形式で行われる。				
キーワード：研究計画，研究テーマ				
〔 授業計画 〕				
回 数	テ ェ マ ・ 内 容			
第 1 回	テ ェ マ：「感覚統合療法の効果について」，「特別支援教育における作業療法」 内 容：学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む 1) 学生は、研究テーマを述べることができる。 2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。 3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を、受けることとする。（学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間として15時間を確保することとする。）			
第 2 回				
第 3 回				
第 4 回				
第 5 回				
第 6 回				
第 7 回				
第 8 回				
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。			
予習・復習	教員の指示に適宜従うこと。			
テキスト	教員と相談のこと。			
参考書・参考資料等	教員より提示される。			
学生に対する評価	レポート課題（70%），学習態度（30%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。）			

授業科目名	作業療法学特論 D Specialized research in occupational therapy, D	履修年次： 選択：作4年	単位数： 1単位 15時間	担当教員名： 松尾真輔 [作業療法士] (仁戸名研究室6)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順に即して作成できる (5) 卒業研究の発表(プレゼンテーション)ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる				
〔授業の概要〕 保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「生活行為向上マネジメントについて・作業療法教育について」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。				
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ ・ 内 容		
第1回	適宜指示	テ マ : 「生活行為向上マネジメントについて・作業療法教育について」 内 容 :		
第2回	〃	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む 1) 学生は、研究テーマを述べるができる。 2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。		
第3回	〃	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等(臨床実習期間を除く)の講義を、受ける事とする。(学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保するよう学生と相談の上、時間を確保する事とする。)		
第4回	〃	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べることができる。		
第5回	〃	2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べるができる。		
第6回	〃	3) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べるができる。		
第7回	〃	4) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べることができる。		
第8回	〃	5) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。 6) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べるができる。		
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。			
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。			
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。			
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。			
学生に対する評価	レポート課題(50%)、学習態度(30%)、テスト(20%)により、総合的に評価する。(学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。)			

授業 科目名	作業療法学特論 E Specialized research in occupational therapy, E	履修年次： 選択：作4年	単位数： 1単位 15時間 コード：ROP311	担当教員名： 須藤崇行 [作業療法士] 研究室：東校舎2
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順にいて作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる				
〔授業の概要〕 保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「摂食・嚥下リハビリテーション、介護保険分野の作業療法」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。 ----- キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ	マ	内
第1回	適時指示	テ		
第2回		マ		
第3回		内		
第4回		容		
第5回		1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む		
第6回		1) 学生は、研究テーマを述べることができる。		
第7回		2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。		
第8回		3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を、受ける事とする。（学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保するよう学生と相談の上、時間を確保する事とする。）		
履修条件		学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。		
予習・復習		受講する担当教員の適宜指示に従うこと。		
テキスト		受講する担当教員と相談のこと。		
参考書・参考資料等		受講する担当教員より提示される。		
学生に対する評価		レポート課題（50%）、学習態度（30%）、テスト（20%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。）		

授業科目名	作業療法学特論 F Specialized research in occupational therapy, F	履修年次： 選択：作4年	単位数： 1単位15時間	担当教員名： 成田悠哉 〔作業療法士〕 (研究室7)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順に即して作成できる (5) 卒業研究の発表(プレゼンテーション)ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる				
〔授業の概要〕 保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「 <u>地域コミュニティの促進・高齢者介護予防、回復期の作業療法</u> 」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。				
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ・内 容		
第1回	適宜指示	テ - マ：「 <u>地域コミュニティの促進・高齢者介護予防、回復期の作業療法</u> 」 内 容：		
第2回	〃	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む 1) 学生は、研究テーマを述べるができる。 2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。		
第3回	〃	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等(臨床実習期間を除く)の講義を、受ける事とする。(学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が15時間は確保するよう学生と相談の上、時間を確保する事とする。)		
第4回	〃	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べるができる。		
第5回	〃	2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べるができる。		
第6回	〃	2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べることができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べることができる。		
第7回	〃	4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。		
第8回	〃	5) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べるができる。		
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。			
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。			
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。			
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。			
学生に対する評価	レポート課題(60%)、学習態度(40%)により、総合的に評価する。(学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。)			

授業 科目名	臨床体験実習 (Experience-based Fieldwork)	履修年次: 必修:作1年	単位数: 1単位 45時間 コード: ROF101	担当教員名: 科目責任者 成田悠哉 (合同研究室), 岡村太郎, 藤田佳男, 有川真弓, 松尾真輔, 須藤崇行 [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナルリズム      コミュニケーション能力      生涯にわたる探 究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法士を目指すべき者として, 臨床現場での作業療法の対象や作業療法士の役割を学ぶ. 作業療法士が所属する施設の特徴や対象, 組織的位置づけと役割を理解する. 施設での作業療法の対象と作業療法士の役割, 職業倫理を理解する.				
〔授業の概要〕 作業療法士としてふさわしい資質と動機付けを, 入学早期から維持向上させるために, 作業療法士が 働く臨床実践現場を体験する. 臨床実践現場における実習形式により, 作業療法の対象領域, 作業療法 士のかかわり方とその手法等に接することで, 学習意欲の向上と作業療法士となるにあたっての課題を 自覚する.				
キーワード: 臨床見学, 作業療法士の役割, 作業療法士の対象, 職業倫理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	6/12	オリエンテーション	作業療法士が勤務する施設で1日の臨床現場の流れを 体験し, 作業療法の提供される場面, 作業療法士の接し 方を学ぶ. 各学生は, 原則以下の領域別の異なる5施設 で体験学習を行う. 1. 身体障害領域 2. 精神障害領域 3. 発達障害領域 4. 老年期障害領域	
第2回	6/19	臨床体験実習1		
第3回	6/26	臨床体験実習2		
第4回	7/3	臨床体験実習3		
第5回	7/10	臨床体験実習4		
第6回	7/17	臨床体験実習5		
第7回	7/24	報告会		
履修条件	オリエンテーションへの参加 (6/12以前にもオリエンテーションを開催する)			
予習・復習	実習施設の概要を事前に把握し, 実習にて得た情報を各自まとめる.			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	なし			
学生に対する評価	臨床実習指導者と担当教員により総合的に評価. 1. 参加態度 50% 2. 各回の事前準備と事後レポート 25% 3. 報告会の発表内容 25%			

授業 科目名	評価実習 (Clinical Practice I)	履修年次： 必修：作3年	単位数： 4単位 180時間	担当教員名： 科目責任者 松尾真輔 (研究室：研究棟6) 岡村太郎、藤田佳男、有川真弓、 須藤崇行、成田悠哉 (全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法では、評価に始まり評価に終わる、といわれることが多い。近年の早期退院傾向において顕著なトップダウン、及び古典的なボトムアップの双方の観点を踏まえながら、学生としてできる範囲で、作業療法における主訴の把握、あるいは全体像の理解を通しての問題点抽出に重点を置いて実習する。 作業療法の治療実践において重要な評価法について、その時期、結果の表記、結果の統合などの基本的な知識と技術に関して臨床実習指導者のもとで模倣学習を行った後、学内にて総括する。				
〔授業の概要〕 本科目では、これまでに学内の講義、及び実習で得た知識と技術を踏まえて、臨床現場において臨床実習指導者のもとで作業療法を体験する。主として千葉県内の医療・保健施設において3週間の実習を行った前後、学内において実習の準備とフィードバックのための報告会を実施する。作業療法の領域としては以下の4つを想定している。 身体障害領域、 精神障害領域、 発達障害領域、 老年期障害領域				
キーワード：トップダウン、ボトムアップ、評価計画、記録、報告				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		
実習準備 8/29～8/30	評価の練習 (OSCE 8/20 予定)	臨床場面での作業療法において、以下の2つの観点での評価の目的と方法、及び記録と報告について学ぶ。 トップダウンの場合、作業療法に対する主訴の把握、阻害要因の理解、問題点の解決方法まで。 ボトムアップの場合、全体像の把握から評価計画の立案、問題点の抽出、統合と解釈、作業療法の治療計画の立案まで。		
評価実習 9/9～9/28	臨床場面における作業療法評価の実際	各々の領域における臨床実習で得られた体験学習について、学内においてフィードバックを行い、主として、作業療法における評価に関する知識と技術を再確認する。		
学内実習 9/30～10/2	臨床作業療法における評価の再確認			
履修条件	特になし。			
予習・復習	各分野に関わる講義資料を整理し、評価実習に臨み、評価実習後は関係書類をまとめることで情報を整理すること。6月以降臨床実習に向けたオリエンテーションや実習準備で日程調整があるため、予定は確認すること。			
テキスト	特になし。			
参考書・参考資料等	本専攻作成「臨床実習の手びき」の他は、各々の臨床実習施設において適宜紹介されたものを用いる。			
学生に対する評価	1. 出席状況(4/5以上) 2. 大学の課題内容(40%) 3. 臨床実習指導者の成績評価(40%) 4. 実習終了後の報告会の発表内容(20%) 5. 全体を通じ実習への取り組み(+ ) 以上を総合評価し、大学が単位認定する。			

授業 科目名	評価実習 (Clinical Practice II )	履修年次 必修：作4年	単位数： 4単位 180時間 コード：ROF302	担当教員名： 科目責任者 松尾真輔 (研究室：研究棟6) 岡村太郎、藤田佳男、有川真弓、 須藤崇行、成田悠哉 (全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法では、評価に始まり評価に終わる、といわれることが多い。近年の早期退院傾向において顕著なトップダウン、及び古典的なボトムアップの双方の観点を踏まえながら、学生としてできる範囲で、作業療法における主訴の把握、あるいは全体像の理解を通しての問題点抽出に重点を置いて実習する。 作業療法の治療実践において重要な評価法について、その時期、結果の表記、結果の統合などの基本的な知識と技術に関して臨床実習指導者のもとで模倣学習を行った後、学内にて総括する。				
〔授業の概要〕 本科目では、これまでに学内の講義、及び実習で得た知識と技術を踏まえて、臨床現場において臨床実習指導者のもとで作業療法を体験する。主として千葉県内の医療・保健施設において3週間の実習を行った後、学内においてフィードバックのためのセミナーを実施する。作業療法の領域としては以下の4つを想定している。 身体障害領域、 精神障害領域、 発達障害領域 老年期障害領域				
キーワード：トップダウン、ボトムアップ、評価計画、記録、報告				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		
実習準備 10/3～10/4	評価の練習	臨床場面での作業療法において、以下の2つの観点での評価の目的と方法、及び記録と報告について学ぶ。		
評価実習 10/7～10/26	臨床場面における作業療法評価の実際	トップダウンの場合、作業療法に対する主訴の把握、阻害要因の理解、問題点の解決方法まで。 ボトムアップの場合、全体像の把握から評価計画の立案、問題点の抽出、統合と解釈、作業療法の治療計画の立案まで。		
学内実習 10/28～10/30	臨床作業療法における評価の再確認	各々の領域における臨床実習で得られた体験学習について、学内においてフィードバックを行い、主として、作業療法における評価に関する知識と技術を再確認する。		
履修条件	特になし。			
予習・復習	各分野に関わる講義資料を整理し、評価実習に臨み、評価実習後は関係書類をまとめることで情報を整理すること。			
テキスト	特になし。			
参考書・参考資料等	本専攻作成「臨床実習の手びき」の他は、各々の臨床実習施設において適宜紹介されたものを用いる。			
学生に対する評価	1. 出席状況(4/5以上) 2. 大学の課題内容(40%) 3. 臨床実習指導者の成績評価(40%) 4. 実習終了後の報告会の発表内容(20%) 5. 全体を通じ実習への取り組み(+ ) 以上を総合評価し、大学が単位認定する。			

授業 科目名	総合実習 Total clinical fieldwork	履修年次： 必修：作3年	単位数： 8単位 360時間	担当教員名： 科目責任者 須藤 崇行 (研究室：東校舎棟2) 岡村太郎、藤田佳男、有川 真弓、松尾真輔、成田悠哉 (全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目	コード：ROF401	
〔DP〕 .健康づくりの実践, .倫理観とプロフェッショナリズム, .コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法の評価の立案から作業療法の実施という治療・指導・援助の一連の流れを学ぶ。また、各々の臨床領域における実習体験から、様々な病期・障害に対する作業療法を統合して理解する。				
〔授業の概要〕 臨床実習指導者の指導の下、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助を通じて、作業療法士としての知識と技術・技能及び態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 自ら進んで行動して考えるという卒業後の作業療法士としてのなすべき行動を身につける、また卒業時点で習得されるべき知識と技術の内容を着実に理解する。				
キーワード：作業療法評価の実施、治療計画の立案、作業療法プログラムの実施、再評価の実施				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
実習準備	12/5 (予定)	学内における事前学習 (OSCE は 12/24 予定)	オリエンテーション、事前準備 実習前学生評価 (OSCE)	全教員
総合実習	1/20 ~ 3/8	実習施設における学外実習	作業療法士が勤務する身体障害領域、精神障害領域、老年期障害領域、発達障害領域のいずれかの施設で臨床実習を行う。臨床実習指導者のデモンストレーションやクリニカル・リーズニングの提示等の指導の下、自ら主体的に作業療法の治療・指導・援助を実施する。	全教員
学内実習	3/10 ~ 3/14	学内における事後学習	事例報告書の作成、事例報告会の参加、 実習フィードバック	全教員
履修条件	なし			
予習・復習	・予習として臨床実習の手引きを熟読のこと。 ・上記以外の日程においても、総合実習に関するオリエンテーションや実習に向けた準備があるため、適宜予定の確認をすること。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	臨床実習の手引き			
学生に対する評価	1. 出席状況 (4/5 以上) 2. 大学の課題内容 (40%) 3. 臨床実習指導者の成績評価 (40%) 4. 事例報告会の発表内容 (20%) 5. 全体を通じ実習への取り組み (+ )			

授業 科目名	総合実習 Total clinical fieldwork	履修年次: 必修：作4年	単位数： 8単位 360時間	担当教員名： 科目責任者 須藤崇行 (研究室：東校舎棟2) 岡村太郎、藤田佳男、有川真弓、 松尾真輔、成田悠哉 (全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .健康づくりの実践、 .倫理観とプロフェッショナリズム、 .コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法の評価の立案から作業療法の実施という治療・指導・援助の一連の流れを学ぶ。また、各々の臨床領域における実習体験から、様々な病期・障害に対する作業療法を統合して理解する。				
〔授業の概要〕 臨床実習指導者の指導の下、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助を通じて、作業療法士としての知識と技術・技能及び態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 自ら進んで行動して考えるという卒業後の作業療法士としてのなすべき行動を身につける、また卒業時点で習得されるべき知識と技術の内容を着実に理解する。 キーワード：作業療法評価の実施、治療計画の立案、作業療法プログラムの実施、再評価の実施				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	3/24～3/28	学内における事前学習	オリエンテーション 事前準備	全教員
第2回	4/14～5/31	実習施設における学外実習	作業療法士が勤務する身体障害領域、精神障害領域、老年期障害領域、発達障害領域のいずれかの施設で臨床実習を行う。臨床実習指導者のデモンストレーションやクリニカル・リーズニングの提示等の指導の下、自ら主体的に作業療法の治療・指導・援助を実施する。	全教員
第3回	6/2～6/5	学内における事後学習	事例報告会 事例報告書の作成	全教員
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として臨床実習の手引きを熟読のこと。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	臨床実習の手引き			
学生に対する評価	1. 出席状況(4/5以上) 2. 大学の課題内容(40%) 3. 臨床実習指導者の成績評価(40%) 4. 事例報告会の発表内容(20%) 5. 全体を通じ実習への取り組み(+ )			

授業 科目名	地域作業療法学実習 Fieldwork for Community-based Occupational Therapy	履修年次: 必修: 作業 4 年	単位数: 3 単位 135 時間	担当教員名: 科目責任者 藤田佳男 (仁戸名研究室 5) 岡村太郎、有川真弓、松尾真輔 須藤崇行、成田悠哉 (全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 健康づくりの実践 多職種との協働 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 作業療法が展開されている地域や施設などの概要を知り、支援体制を説明することができる。				
2. 実習施設と地域との関係を知り、地域のネットワークの観点から説明することができる。				
3. 地域で展開されている作業療法支援について学び、生活者としての対象者支援について説明することができる。				
4. 全体的な学びから、地域作業療法の今後の課題と可能性について説明することができる。				
〔授業の概要〕				
在宅生活など、住み慣れた地域で安全・安心に対象者が生活できるような作業療法支援について、これまで学んできた講義・演習・実習の内容を、学外実習施設で作業療法士の指導のもとに体験をする。				
本科目は、実践現場における実習形式により、保健や福祉、保健政策に関わる内容など幅広い作業療法の職域で作業療法士の活動を経験することを目的とする。担当教員の病院および施設での実務経験により学習の支援を行う。				
キーワード: 地域、在宅支援、連携、ネットワーク、生活				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内容		
第1セッション 6/13～6/14	・オリエンテーション ・学内事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修の準備、実習に関する注意事項</li> <li>学内で、事前に実習に関連した学習してきた内容を整理し、実習施設や地域の情報収集を行う。</li> </ul>		
第2セッション 6/17～6/30	・実習施設における学外実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における作業療法士が働く職場で、そこで提供される作業療法支援について見学および体験をする。</li> </ul>		
第3セッション 7/1～7/4	・学内事後学習 (実習の振り返り) ・成果発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習で得た情報、見学や体験してきた内容をまとめながら、振り返りを行う。</li> <li>一連の授業内容を通じての経過と考察を整理し、報告会で発表する。</li> </ul>		
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として実習の手引きを用い、復習には配布資料を用いることを推奨する。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	「地域作業療法学実習の手引き」 その他資料を配布、参考図書を紹介する			
学生に対する評価	学習態度 60% (実習指導者のコメント 30%、事前・事後学習 30%) 課題 40% (成果報告会および最終報告書 30%、その他 10%)			

授業 科目名	卒業研究 Graduation Research	履修年次： 必修：作4年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 科目責任者 岡村 太郎 (研究室：仁戸名研究棟8) 藤田, 有川, 松尾, 須藤, 成田 [全員作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード:ROR401		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 研究計画の目標が立てられる (2) 研究計画に基づいた研究ができ、その成果物として論文の提出ができる (3) 卒業研究について発表ができる (4) 提出した論文を卒業論文集として編集作業に加わることができる				
〔授業の概要〕 作業療法に必要な研究について、基本的な手法などの一連の流れを基にして、論文のまとめ、及び発表形式を体験する。本科目は、担当教員から研究計画 - 研究の実施 - 研究のまとめについて指導を受ける演習・実習に準じた形式により、学生各自の問題・課題の意識を動機付けにした積極的な取り組みにより促進を図る。 キーワード：卒業研究，研究発表，論文執筆，研究				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/2	オリエンテーション	演習の進め方、注意事項に関する説明	岡村
		総合実習中		
第2回	7/8~ 8/8	1. 卒業論文主担当教員・副担当教員について 1) 学生は研究方法論で各指導教員の研究テーマ等聴講の上、主担当教員を希望することができるが、研究テーマ等により、主担当教員・副担当教員を決定する。 2) 卒業研究の指導は、主担当教員が主に実施する。副担当教員には、随時、研究が円滑に進められるよう助言・相談ができる。 3) 各学生は研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して、解決方法を見出すための助言・指導等(臨床実習期間を除く)を、主担当教員の面接指導を最低、毎週一回程度は受ける事とする。(主担当教員は学生の実質指導時間が30時間は確保するよう学生と相談の上、指導時間を確保する事とする。)		
第3回	8/8~ 9/27	2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領(研究方法論で配布)に沿った論文の原稿作成、投稿(提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2024年11月22日</b> , <b>卒業研究論文本提出(指導教員に表紙+紙媒体で提出)2024年11月29日</b> , 発表までの過程(抄録作成、発表準備、発表進行)を遂行できる( <b>2024年12月6日発表日予定</b> )、印刷用原稿締切(2024年12月13日)各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。(チームスファイルに収納予定)その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第4回	10/3~			
第5回	11/1			
第6回	11/5~	2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領(研究方法論で配布)に沿った論文の原稿作成、投稿(提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2024年11月22日</b> , <b>卒業研究論文本提出(指導教員に表紙+紙媒体で提出)2024年11月29日</b> , 発表までの過程(抄録作成、発表準備、発表進行)を遂行できる( <b>2024年12月6日発表日予定</b> )、印刷用原稿締切(2024年12月13日)各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。(チームスファイルに収納予定)その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第7回	11/29			
第8回	12/2~	2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領(研究方法論で配布)に沿った論文の原稿作成、投稿(提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2024年11月22日</b> , <b>卒業研究論文本提出(指導教員に表紙+紙媒体で提出)2024年11月29日</b> , 発表までの過程(抄録作成、発表準備、発表進行)を遂行できる( <b>2024年12月6日発表日予定</b> )、印刷用原稿締切(2024年12月13日)各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。(チームスファイルに収納予定)その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第9回	12/24			
第10回	1/4~	2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領(研究方法論で配布)に沿った論文の原稿作成、投稿(提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2024年11月22日</b> , <b>卒業研究論文本提出(指導教員に表紙+紙媒体で提出)2024年11月29日</b> , 発表までの過程(抄録作成、発表準備、発表進行)を遂行できる( <b>2024年12月6日発表日予定</b> )、印刷用原稿締切(2024年12月13日)各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。(チームスファイルに収納予定)その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第11回	1/31			
第12回		2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領(研究方法論で配布)に沿った論文の原稿作成、投稿(提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2024年11月22日</b> , <b>卒業研究論文本提出(指導教員に表紙+紙媒体で提出)2024年11月29日</b> , 発表までの過程(抄録作成、発表準備、発表進行)を遂行できる( <b>2024年12月6日発表日予定</b> )、印刷用原稿締切(2024年12月13日)各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。(チームスファイルに収納予定)その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第13回	2/3~			
第14回	2/7	2. 卒業研究の指導される目標は以下に示す。 1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、作業療法学専攻の倫理審査を受ける。 2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる 2) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。 3) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。 4) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文としてデータをまとめることができる。 5) 卒業研究論文は執筆要領(研究方法論で配布)に沿った論文の原稿作成、投稿(提出用フォルダーに卒業研究論文仮提出 <b>2024年11月22日</b> , <b>卒業研究論文本提出(指導教員に表紙+紙媒体で提出)2024年11月29日</b> , 発表までの過程(抄録作成、発表準備、発表進行)を遂行できる( <b>2024年12月6日発表日予定</b> )、印刷用原稿締切(2024年12月13日)各ゼミより発表調整担当者、卒業論文編集担当者各1名を決め、岡村まで報告する事。学生は執筆要綱等を熟読すること。(チームスファイルに収納予定)その後、卒業論文の発行に向けて、印刷編集校正を実施ができる。		
第15回				
履修条件	学生は必ず、主担当教員と相談の上、研究指導時間を設定して下さい。			
予習・復習	文献・倫理審査作成、予備実験、実験の実施、論文の執筆、発表練習、印刷編集			
テキスト	主担当教員と相談のこと			
参考書・参考資料等	主担当教員と相談のこと			
学生に対する評価	卒業研究執筆要領を厳守にされた卒業論文の締切までに提出のうえ、卒業論文と研究等の学習状況(発表会含む)との結果で基準にそって主担当教員が評価する。			